かぜ・そら・たいようぐみだより 7月号

2020.7.31. 円町まがね隣保園

今日の6日にプール開きをし、プールに入れることを楽しみにしている子どもたちです。セミの声も日に日に大きくなり、保育室の窓からだるま寺や蚕堂公園を見ています。先日、そら、たいよう組でセミ捕りに行きました。何匹かセミを見つけると、嬉しくて、"なっやなぁ""セミがないたら、あつくなるわぁ"とつぶやく姿がありました。園ではこまめに水分補給をし、休息を取り、熱中症対策をしつつ、夏ならではのあそびを楽しんでいます。

たいようぐみ

プールあそび

毎朝、"きょうは はれてるし(くもってるし)プール はいれる?"と子どもたち、保育者が"入れるよ"と伝えると、"やった~!!"と跳びあがって喜ぶ子どもたちです。気温が低かったり、天候が良くなかったりして入れる日は少なかったのですが、それでもプールに入れる日は嬉しくて、たまらない様子です。年長になってから、水泳中留を用意するので、プールが始まる前から、頭にかぶってみんなに見せて回る姿がありました。プ

プール開きをする前には、プール周りは滑りやすいので走らないこと、プールの中では友だちの上に乗ったり、押し倒したりしないこと、大きな事故につながってしまう危険性など、プールをする上での約束ごとをみんなで確認し合いました。

プールでは犬に鬼ごっこやトンネルくぐり、洗濯機ごっこをして遊んでいます。保育者が"○○しよう"と提案することもありますが、友だちを誘い合い、自分たちで遊び始めることが多くなってきています。水に顔をつけられる子どもは水中にもぐって泳ぎ、水中探索をしています。タライやペットボトルのイカダを用意すると、浮かんだり、ひっくり返ったりすることが面白くて、大盛りあがりです。"きょうは こんなんしたい!""こんなふうに みずのなかに はいってみたら おもしろいんちゃう?"と日々、子どもたちのあそびが広がっているところです。これからあと1ヶ月のプールあそびをめいっぱい楽しんでいきたいと思います。

竹馬お披露目会

"たいよう組になったら、竹馬に乗りたい!"という思いを膨らせていた子どもたちです。6月から竹馬に乗り始めています。まずは片足で乗り、感覚をつかむと両足を乗せていきます。前へ進もうという気持ちはあるのですが、竹馬が浮く感じが怖かったり、手足の動きを合わせることが難しかったりする姿がありました。"乗ってみたい""乗れるようになりたい"という思いで、日々の中で時間を見つけては竹馬に乗っています。そんな中、"せんせい たけうまのれるようになってさ、いろんなせんせいに みてもらいたいねん、ちっちゃい おともだちにも みてほしい"と子どもからの声がありました。そして、先日、竹馬お披露目会の時を設けました。当日が近付くにつれて、ドキドキが止まらない子ども、早く見せたくて仕方がない子ども、どんどん高さをあげて欲しい子どもなど、様々な姿があります。カレンダーを見て、"あと○かいねたら せな""めっちゃ たかいのに のってみる"など指折り数えて、楽しみにしています。

いざ、その日が来ると、より竹馬に乗る時間も多くなります。一人ずつ名前を呼ばれると、前へ進み、たくさんの拍手と励ましもあり乗り終えた後はどの子どもも笑顔に溢れています。"みてもらってうれしかった!""また たかくしたら みてほしい!""てに あせが びっちょり"や"と思い思いに話していました。当日、仲村の子どもや早い迎えの子どももいたので、また機会を設け、全員で見てもらう喜びを味わえるようにしたいと思います。

そらぐみ

◎プールあそび

梅雨でなかなかプールに入れない日が続きました。天気の良い日には待ちに待っていたプールに入ることができ、とても嬉しそうな子どもたちです。プールに早く入りたくてワクワクして水着に着替えます。水をかけ合ったり、顔をつけて気持ち良さそうに泳いだり、飛び込んだり、全身を使って大胆に遊ぶ姿があります。今の時期しかできないプールや感触あそびなど夏の遊びを存分に楽しみたいです。

◎感触あそび

色水や寒天、泡あそびなど夏ならではの遊びを全身で楽しんでいます。色水あそびでは、混ぜる色の割合によって その時、その時で出来上がる色が違ってきます。自分で試行錯誤して友だちと色水を混ぜ合い、楽しんでいます。泡あそびでは、手足を使って感触を感じる他に「いいにおい!」「からだあらう!」と石鹸の匂いも感じ、遊びを広げていました。

◎あかくなったよ!

育てていたトマトが成長し、「あかくなってる!」と嬉しそうな子どもたちです。収穫し、給食やおやつの時に食べています。

「おいしい!もうちょっとほしい!」「ちょっとすっぱい。」「きらいやけどおいしかった!」とそれぞれです。収穫できたものを食べる時の喜びや、成長する過程の興味、食べ物を頂く感謝の気持ちを大切にしていきたいと思います。

◎できた できた を いっぱいに

自分の中の願いとうまくいかなかった時の予備が大きくなり、この予備は子どもの心に少し不安定な気持ちをもたらします。自信を持ちきれない時に乱暴な言葉を使ったり、今までやっていたことを急に放り出してしまったりということもあります。一方的に叱るだけでなく、子どもをしっかりと抱きしめ、心を落ち着かせながら「本当はへしたかったんだね」と言葉をかけることも大切です。どんなことをやってみようと頑張っているのか、その頑張りをゆったりと見守り、新しい自信になろうと頑張れた時に「すごいね」「がんばったにね」と声をかけられる大人でありたいと思います。こうした自信の積み重ねが自制心の土台になっていきます。家庭と連携しながら保育にもつなげていきたいと思います。

かぜぐみ

プールあそび・泥んこあそび・色水あそび

プール開きになってから、ずっと雨で入れず、「今日は、プール入れる?」「水着着る?」と、とっても楽しみにしていました。やっとプールに入れた時は、「やったー!」「あ~いっぱいや!」と大喜びの子どもたちです。プールに入ると、すぐに、水しぶきをあげてあそび出します。水をかき分け、小走りになる子ども、腹ばいになって、ワニ歩きをする子ども、友だちと水のかけ合いっこをする子どももいます。それぞれが、好きなあそび方で楽しんでいます。「みてて~!」ともぐってみたり、顔をつけてみたり身体全体であそんでいます。

泥んこあそびでは、園庭を掘って、水を入れて、泥んこプールにします。グニュッとした感触が気持ちよくて、足を入れて動かしてみたり、泥を手ですくったりしています。また、泥がつくと嫌な子どもは、手でツンツンしたり、足でそっと触ってみたり、お団子を作ったりしています。繰り返しあそぶことで、少しずつ泥の感触も楽しむようになり、今ではみんなで、身体中泥んこになってあそんでいます。

色水あそびでは、ペットボトルのふたに、絵の具をつけておきます。子どもたちが、ペットボトルに水を入れ、「ふたちょうだい!」ともらって閉め、シャカシャカシェイクします。すると、「あっ!いちごジュースになった」と不思議そうにしています。カップの中に色水を入れ、ジュース屋さんの始まりです。「いちごジュースください」「ヤルビスください」と色を混ぜ、「あっ、ぶどうジュースになった」「コーヒーもあります」と友だち同士、やりとりを楽しんでいました。

栽培

雨の降っていない日は、屋上に行き、1人ずつジョーロに水をくんで、きゅうりやオクラに水をあげます。「あっ、あっちのお花にもあげてこ」「そら工のトマトにもあげな」と水やりを楽しんでいます。きゅうりが「どんどん大きくなり「花が咲いてる」「赤ちゃんきゅうりでてる」「あのきゅうりおばけきゅうりや」と成長を見るのも楽しみます。とれたてきゅうりのイボイボは、ケクケク痛いんですが、給食室まで順番に持ち「おねがいしまーす」と渡していました。給食の時に「おいしい~」と食べました。

かぜぐみでの生活の流れも身につき、生活、活動、あそびの中で様々なことを自分でしていきます。その中で、自分で考え、自分で決め、自分で行動していく「自我」を発揮している子どもたちです。自分の身体や手を使って「もっとしたい」「こんなこともしたい」と生活やあそびを広げ、イメージやことばの土台もふくらませていきます。そら、たいようぐみの友だちの姿に憧れを持ったり、友だちと一緒にしたりすることを楽しんでいます。しかし、手と足、身体全体を使って、自分ですることや、やってみたいことが、必要えるにもかかわらず、実際にできることはまだ限られています。自分で考えたり、比べる力が獲得されていく中で、「上手くできるかなぁ」「もしかしたらできないかも」と悩んだり、不安な気持ちになり、一歩が踏み出せない時もあります。昨日はできたけれど、今日はできない時もあります。又、やってみて上手くいかない時は、涙したり、怒ったり、乱暴な言葉や行動になってしまうこともあります。この経験を積み重ね、自分の心をコントロールできるようになると、悩みや葛藤を乗り越えられるようになります。子どもが悩み葛藤している時は、結果を急がず、やってみるまでのプロセスを大切にし、子どものやりたい気持ちと不安な気持ちを受け止め、ゆったりと見守ります。そして、できた時には、一緒に喜び共感したいと思います。又何度もやってみたい気持ちや、やってみようという気持ちになり、できた時の達成感を積み重ねていきたいと思います。